

第4回町田市庁舎跡地等検討委員会 議事要旨

日 時	2011年5月30日 18:00～20:00	場 所	森野分庁舎 2階 第二会議室・第三会議室
出席者	<p>【委員長】 中井委員 【副委員長】 柳沢委員</p> <p>【委員】 中里委員、盛永委員、土方委員、鈴木委員、池田委員、三ノ輪委員</p> <p>【事務局】 倉田政策経営部長 企画政策課：市川課長、小田島課長補佐、大橋担当係長、石川主任、藤田主事</p> <p>【関係部署】 管財課、文化振興課、博物館、高齢者福祉課、保健企画課、児童青少年課、子育て支援課、産業観光課、都市計画課</p> <p>【(株)首都圏総合計画研究所】 木下、肥田</p> <p>【傍聴】 9名</p>		

1. 開会

倉田政策経営部長より開会の挨拶があった。

- 今回は、市民アンケートの結果や、整備が期待されている施設の配置状況等を踏まえ、跡地活用の方向性の絞り込み、賑わいのイメージの共有ができればと考えている。宜しくご検討いただきたい。

2. 第3回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨の確認

第3回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨について、資料1に基づき事務局から説明。

第3回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨を確定した。

第3回委員会の傍聴者意見について、参考資料1に基づき事務局から説明。

3. 跡地活用の方向性の検討

(1) 跡地活用の方向性における『賑わい』のイメージの検討

(2) アンケートで期待されている施設の配置状況

(3) 跡地活用の方向性の絞り込み

検討のスケジュールについて、参考資料2に基づき事務局から説明。

庁舎跡地等の活用に向けた基本的理念と活用の方向性について、参考資料3に基づき事務局から説明。

賑わいのイメージの検討について、資料2に基づきコンサルから説明。

アンケートで期待されている施設配置状況について、資料3に基づき事務局から説明。

「新たな賑わい」の将来像を考える事例について、資料4に基づきパワーポイントを交え、コンサルから説明。

○ 意見等

- 委員長：高齢者施設について、公共施設の配置に関する現況説明があったが、たとえばジムやスーパー銭湯など、民間による高齢者のための施設についても調べてほしい。また、公共施設の配置を踏まえ、各施設の需要や必要性について、市の考えがあれば示してほしい。

→事務局：具体的には資料として載せていないが、施設を設置する場所は別として、今後の施設整備について答えられるものは担当各課よりご説明したい。

(子ども関連施設)

→児童青少年課：子どもセンターは、市内に5ヶ所設置予定であり、そのうち現在3カ所の設置が終わり、多くの子どもの賑わっている。残りの2ヶ所については、忠生地区が実施設計の段階であり、町田地区が未整備である。市内42小学校の学区全てに学童保育クラブがあるが、子どもセンターは多くの地区の子どもにとって遠いのが現状である。子どもセンターの設置が全て終われば、玉川学園・南大谷の子どもクラブのような、地域に密着した小規模施設を中学校区ごとに設置していくのが、子どもの安心・安全の観点から理想と考えている。このほか、マンション開発の進む小山ヶ丘地域から子どもセンター設置の要望が出ている。

町田駅周辺は中高生が集まる立地なので、中高生の居場所も兼ねた子どもセンターができればよいと思う。また子育て中の母親から、買い物時の休憩の場所が少ないとの声があり、これを兼ね備えた子どもセンターが出来ればよいと考えている。

→子育て支援課：今年度の待機児童数は435名が確定値となっており、保育園の需要は高い状況にある。公立保育園は市内に9園設置されているが、町田地区の公立保育園のうち、市立本町田、市立森野、森野三丁目の各園は民間に事業主体を移行予定である。市立町田保育園については、駅に近い立地を活かした地域の子育て拠点として、機能強化をする必要があると考えている。

→委員長：駅型保育の需要が高まっているという指摘があるが、駅前等への建設の可能性はあるか。

→子育て支援課：認可保育園は施設の基準上難しいが、認証保育所は可能性があると考えます。

(高齢者福祉施設/高齢者入所施設/高齢者住宅)

→高齢者福祉課：地域包括支援センターは今年4月から、「高齢者支援センター」に名称を変更し、また15施設から12施設に整理統合したところである。このため、配置の変更は考えていない。高齢者福祉センターは市内に6ヶ所あり、町田駅周辺には「ふれあいもっこく館」があることから、今のところ増設は考えていない。

介護老人保健施設については、堺忠生地区、鶴川地区、町田地区、南地区の4圏域に均等に配置することを考えている。2012年度に1施設(鶴間)の開設が予定されており、これ以上の設置は考えていない。特別養護老人ホームは昨年10月の調査で市民1,600人が入所待ちの状況となっている。今年度5園の開設が予定されているが、4圏域均等という点からは町田地区は2施設に留まっている。高齢化の進行を踏まえると今後も必要になる。

シルバーピアについては、都営・市営住宅の設置にあわせて整備している。借り上げ型は、建設当時に国の補助を受けるために地主が特に希望して建設された経緯があり、新規の施設は考えていない。

(医療施設)

→保健企画課：病院は市立1ヶ所・458床、市立以外が19ヶ所・3,542床である。ま

た、診療所は市立2ヶ所、市立以外303ヶ所・146床となっている（平成23年3月31日現在）。

跡地利用としての公立病院建設については、旭町に建て替えたばかりの市民病院があり必要ない。診療所は、健康福社会館にある準夜急患こどもクリニックが手狭になっており、機能の充実を考えると別の場所への設置が必要と考える。あわせて、健康福社会館にある休日歯科・障がい者歯科応急診療所も充実化を図る必要がある。

このほか、町田市保健所が築36年を迎えており、老朽化による建て替えが課題となっている。

（文化芸術施設）

→文化振興課：市民ホール（約800席）は、ボウリング場を改修して整備した。耐震補強を行っており、今後10～20年は使えるが、将来的には代替施設が求められる。

また「町田・相模原業務核都市基本構想」に1,500席程度のコンベンションホール設置の構想がある。町田市ではこうした大規模ホールを造っていきたいという考え方をもっている。このほか鶴川に300席程度のホールを建設中で、これら大中小のホールによる事業展開ができればと考えている。

市立博物館は老朽化と立地条件が課題となっている。昨年度、博物館のあり方検討を行い、年度末に答申が出された。今後、求められる博物館像についてさらに検討を加え、設置場所も含め考えていきたい。

（交通機能）

→都市計画課：町田駅周辺の中心市街地は、昨年度に改定した都市計画マスタープランにおいて、回遊性確保、来街者対応などについて方針を定めている。

「町田駅」バス停については、車道有効幅員8mでバスバースがない現況を交通計画上の課題として認識している。駅周辺のどこかにバスターミナル、タクシーの待機場所が必要と考えている。周辺環境への影響にも配慮しつつ対策を検討したい。

- 委員：町田駅近くに子どもセンターをつくる要望が出ているのか。また、「賑わい」を見据えて跡地に子ども関連施設をつくるとするとどのようなものが考えられるのか。

→児童青少年課：町田地区において子どもセンターの要望は地元からかなり出ている。これまで、子どもセンターは市周縁部を優先して整備してきた。青少年健全育成地区委員会でも準備委員会を立ち上げて話し合いを続けているが、場所の確保が課題のひとつとなっている。

駅に近いところに、中高生の居場所や、子育て中の母親が買い物中に休憩・授乳・おむつ換えができる場所も兼ねた施設になればよいと考えている。

- 委員：子どもセンターは、賑わいづくりの観点との繋がりがよく分からない。
→児童青少年課：子どもセンターは子どもの居場所として、屋根のある公園のイメージである。子ども達・お母さん達のための各種事業・イベントや、地域の皆さんの協力でお祭りを開催しており、そうした賑わいは考えられる。
- 委員：公園で多少屋根があって、各種イベントができるが、子どもも集まる場所もある、というのならばイメージできる。子どもセンターは公共で作るイメージ

だが、大宮の鉄道博物館などのような子ども関連施設も考えられる。

→委員長：この敷地であれば、いくつかの機能を複合化させることは可能だと思う。また、賑わいをもたらす施設には、施設そのものが賑わいを生み出すものと、人が集まることでその周辺に賑わいが生まれるものがある。子どもセンターは後者となる。児童福祉法に位置づけられる施設は制度上必要な設備内容が決まっているが、柔軟に考えられるとよいのではないか。

- 委員：子どもセンターの利用者は周辺からのごく一部に留まっている。子ども施設や高齢者施設は、賑わいづくりの観点からかけ離れていると思う。また、国際版画美術館や子どもセンターなどのいわゆる箱物は維持管理費が相当かかるのではないか。

→児童青少年課：子どもセンターの施設維持管理費は年間1,500万円程度である。

→事務局：国際版画美術館については、手持ち資料がない。

→委員長：入館者数も教えてほしい。

- 委員：学童保育は小学校3年生までで、それ以上の子どもには居場所がなく、集まる場所を必要としていると思う。中央地区は場所がないことで苦労していたが、庁舎跡地の話によって明かりが見え、少し希望が持てた気がしている。

- 委員：本庁舎跡地は、延床面積9,000坪程度は建設可能と思う。今の段階で導入機能を絞り込む必要はない。中心となる施設にどれくらいの面積が必要なのかを見据えて議論する必要がある。

→委員長：現段階は、コアになる施設がまだ見えていない状況といえる。

- 委員：単に楽しいだけでなく、まちの中心に奥深いものが感じられるよう、作る側が明確に考えを持っている必要がある。採算性・事業性の他に、このまちに本当に必要なものは何か、両面から検討する必要がある。

- 副委員長：子ども連れの母親が町田駅周辺を動けるようサポートする施設、元気な高齢者のための居場所など、考えられる施設はいくつか挙げられるが、これだけではなくてはならないというものはまだ出ていない。機能を固定化する必要はなく、可変性のあるものがよいのではないか。また、中心市街地であることからクローズな性格の施設は不適切と思う。個人的なアイデアだが、農を意識した施設をまち中に持ってくることは相当おもしろいと思う。

- 委員：市内の遊休地の活用に向けた検討は行っているか。それらに、アンケートで要望の多い施設を導入することが可能ではないか。また、この委員会で施設の内容をどこまで明確にする必要があるのか。

→事務局：市有地の活用については、庁内に検討委員会を設置しており、500㎡以上の低・未利用地について活用の方向性を検討し、場合によっては売却を行うこととしている。規模の大きなものとして6ヶ所の学校跡地が課題となっており、検討作業を進めている。なお、市役所周辺には大きな遊休地はない。

方向性については、段階的な活用も考えられる。一定の方向性を決めていただいた上で、暫定利用など途中段階のものを意見として出していただいてもかまわない。

→委員長：どこまでまとめるかは正副委員長・事務局にお預け頂きたい。

- 委員：保健所の老朽化が進んでいるとのことだが、建替え予定はあるのか。また、新庁舎に入る予定はあるのか。

→保健企画課：保健所は診療所を兼ねているため、感染防止などの観点から、新庁舎に設置しない方向である。ただし、一部部署については新庁舎に移転予定である。

- 副委員長：施設のあり方から運営まで市民が関われる施設は何かという観点から考える方法もある。その意味では、高齢者施設は難しくなるのではないか。
- 委員：直近10年間で他市区における庁舎跡地周辺での商店街の盛衰の事例を調べていただき、次回教えてほしい。
- 委員長：「憩い・交流の場としての賑わい」が一つのキーワードになるのではないか。この場合、企画内容が重要になる。例えば富山グランドプラザでは年間300日くらい稼働している。周囲を巻き込み、いろいろな工夫によってほとんど休みなしの状況でないと賑わいにならない。

　　どういふものを主にするか、事業面、スケジュール等も含めて事務局と検討の上ご提案したい。その際、両敷地の立地等を踏まえた、物語性のあるものを考えたい。少し時間を頂いて、正副委員長、事務局で協議したい。

- 委員：市民ホール、公民館ともに稼働率が非常に高いが、市民ホールの映像関連施設との融合は考えているか。

→文化振興課：現在の市民ホールは必ずしも求められる機能が全てあるわけではないが、一定の音質は確保できると考えている。映像については映画「まほろ駅前多田便利軒」の試写会を行ったが、特に問題はなかった。ただ現在、駅周辺には映画館がないため、本来は映像関係の施設が必要と考えている。

4. その他

第5回町田市庁舎跡地等検討委員会を7月22日18時半から開催することを確認した。

5. 閉会

市川企画政策課長より閉会の挨拶があった。

以上